

国 語

(文学国語)

発 番 号	行 名	者 称略 称	教科書の記号・番号	判型	ページ数	検定済年
2	東京書籍	東書	文国 701	A 5	414	令和4年
15	三省堂	三省堂	文国 702 ◆	A 5	434	
15	三省堂	三省堂	文国 703 ◆	A 5	465	
50	大修館書店	大修館	文国 704 ◆	A 5	454	
50	大修館書店	大修館	文国 705 ◆	A 5	398	
104	数研出版	数研	文国 706 ◆	A 5	486	
117	明治書院	明治	文国 707 ◆	A 5	440	
143	筑摩書房	筑摩	文国 708 ◆	A 5	480	
183	第一学習社	第一	文国 709 ◆	A 5	350	
183	第一学習社	第一	文国 710 ◆	A 5	348	
212	桐原書店	桐原	文国 711 ◆	A 5	426	

※「教科書の記号・番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

文学国語		冊数	11冊
発行者の略称・教科書の番号	東書701 三省堂702 三省堂703 大修館704 大修館705 数研706 明治707 筑摩708 第一709 第一710 桐原711		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【国語の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【文学国語の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【文学国語の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
[知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 我が国の言語文化に関する事項 [思考力、判断力、表現力等] A 書くこと ○ 題材の設定、情報の収集、内容の検討 ○ 構成の検討 ○ 考えの形成、記述 ○ 推敲、共有 B 読むこと ○ 構造と内容の把握 ○ 精査・解釈 ○ 考えの形成、共有	(1) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕における授業時数については、次の事項に配慮するものとする。 ア 「A書くこと」に関する指導については、30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。 イ 「B読むこと」に関する指導については、100～110単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。 (2) 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕に関する指導については、次の事項に配慮するものとする。 ア 「B読むこと」に関する指導については、必要に応じて、文学の変遷を扱うこと。 (3) 教材については、次の事項に留意するものとする。 ア 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B読むこと」の教材は、近代以降の文学的な文章とすること。また、必要に応じて、翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品及び文学などについての評論文などを用いることができること。 イ 内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域における言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表

調 査 項 目	対象の根拠(目標等との関連)
a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、 その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)	学習指導要領第2章第1節第3款1(1)
b 読書に関する指導	学習指導要領第2章第1節第2款第4、2(2)イ
その他の項目(各教科共通)	学習指導要領、東京都教育委員会の基本方針、 東京都教育ビジョン

イ 調査項目の具体的な内容

① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項の a、b 及びその他の項目との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)

- ・ 各単元において、どのような資質・能力を育成できるか見取る。

b 読書に関する指導

- ・ 読書に関する指導についてどのように扱っているかを見取る。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫
- ・ 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫
- ・ 安全・防災や自然災害の扱い
- ・ オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫
- ・ 固定的な性別役割分担意識に関する記述等
*教材名と作品名、作者名等の一覧(別紙)

② 調査対象事項を設定した理由等

a 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成(各教科共通)

- ・ 学習指導要領の第3款の中で「単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて」と言及されているので、文学国語では、各単元(各文章)における「知識及び技能」「書くこと」「読むこと」の指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

b 読書に関する指導

- ・ 学習指導要領では、「人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること」を身に付けることができるよう指導することとされている。このことから、読書に関する指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌の取扱いについては、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会の基本方針1及び東京都の男女平等参画推進の施策を踏まえ、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫(各教科共通)

- ・ デジタルコンテンツの扱い
- ・ ユニバーサルデザインの視点

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	東書
教科書番号	文国701
教科書名	文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「漢字と語彙」が設けられ、漢字や語彙についての理解を深められるよう工夫されている。 ・巻末の「創作へのアプローチ」の中で文学的な文章の種類について扱い、それぞれの特徴について理解を深められるよう工夫されている。 ・「文学への扉」の中で、記号の働きについて触れ、文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現技法について理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動 小説を創作する」「言語活動 共同で詩を創作する」「言語活動 翻案作品を創作する」「言語活動 小説の人称を書き換える」といった教材が掲載されており、設定された課題に沿って情報を収集、整理、表現したいことを明確にするなど、文学的文章を書く学習活動が複数設定されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌、戯曲などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・演劇や映画、文学、芸術などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習の手引き」や「言語活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元のフロントページに掲載されている「読書案内」で、単元の学習に関連する書籍を紹介するとともに、巻末の「読書案内」で各単元の学習に関連する各書籍の概要を紹介する構成になっている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学のふるさと」において、童話「赤頭巾」と狂言「太郎冠者」、「伊勢物語」の「芥川」を比較しながら、「アモラル」という概念を提示し、その側面から文学の特徴を捉えらるるよう工夫されている。 ・「国語から旅立って」「書かれた風景の中へ」において、外国人から見た日本語に触れ、日本語や日本の文化に関するものの見方・考え方を広げることができるよう工夫されている。 ・「空っぽの瓶」において、日本語とドイツ語の一人称の違いを取り上げ、言葉と社会の在り様について考えられるよう工夫されている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～地方官吏の職を奉ずる」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・森絵都「コンビニの母」で、「これでもか、これでもかとスモールトークごと売りつけようとする。単なるサービス精神にとどまらず、そこにはある種の母性が介在しているのがまたいっそうに暑苦しい。」という記述が見られる。 ・須賀敦子「クレールという女」で、「ジャンは私に対して、女としての魅力を評価してくれる。」という記述が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。 ・太宰治「葉桜と魔笛」で、「あのような苦しみは、年頃の女の人でなければ、わからない」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・宮澤賢治、夏目漱石、坂口安吾、正岡子規、森鷗外、太宰治など、教科書に掲載されている作品と作者に関する解説動画にアクセスできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントが採用されている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	光の窓	光の窓	小池昌代
窓	窓	いしいしんじ	雨月物語	雨月物語	木内昇
山椒魚	山椒魚	井伏鱒二	言葉を生きる	言葉を生きる	若松英輔
沖縄の手記から	沖縄の手記から	田宮虎彦	詩と感情生活	詩と感情生活	鮎川信夫
鋏	鋏	三角みづ紀	モードの変遷	モードの変遷	穂村弘
竹	竹	萩原朔太郎	文学のふるさと	文学のふるさと	坂口安吾
永訣の朝	永訣の朝	宮澤賢治	文学の未来	文学の未来	小野正嗣
硝子の駒—短歌抄		島木赤彦	国語から旅立って	国語から旅立って	温又柔
硝子の駒—短歌抄		与謝野晶子	書かれた風景の中へ	書かれた風景の中へ	リービ英雄
硝子の駒—短歌抄		長塚節	平気—正岡子規	平気—正岡子規	長谷川権
硝子の駒—短歌抄		木下利玄	空っぽの瓶	空っぽの瓶	多和田葉子
硝子の駒—短歌抄		釈迺空	クレールという女	クレールという女	須賀敦子
硝子の駒—短歌抄		塚本邦雄	演技する「私」	演技する「私」	安藤宏
硝子の駒—短歌抄		寺山修司	映画の可能性のために	映画の可能性のために	諏訪敦彦
硝子の駒—短歌抄		河野裕子			
硝子の駒—短歌抄		萩原裕幸			
硝子の駒—短歌抄		俵万智			
硝子の駒—短歌抄		岡野大嗣			
硝子の駒—短歌抄		大森静佳			
こころ	こころ	夏目漱石			
鞆	鞆	安部公房			
あの朝	あの朝	角田光代			
檸檬	檸檬	梶井基次郎			
コンビニの母	コンビニの母	森絵都			
夏の姿	夏の姿	木坂涼			
帰途	帰途	田村隆一			
小諸なる古城のほとり	小諸なる古城のほとり	島崎藤村			
金剛の露—俳句抄		河東碧梧桐			
金剛の露—俳句抄		尾崎放哉			
金剛の露—俳句抄		杉田久女			
金剛の露—俳句抄		川端茅舎			
金剛の露—俳句抄		西東三鬼			
金剛の露—俳句抄		日野草城			
金剛の露—俳句抄		加藤楸邨			
金剛の露—俳句抄		黒田杏子			
金剛の露—俳句抄		正木ゆう子			
金剛の露—俳句抄		石田郷子			
金剛の露—俳句抄		權未知子			
金剛の露—俳句抄		日下野由季			
父と暮せば	父と暮せば	井上ひさし		男	女
舞姫	舞姫	森鷗外	評論等	64%	36%
葉桜と魔笛	葉桜と魔笛	太宰治	小説等	85%	15%
蠅	蠅	横光利一	詩歌	60%	40%
			計	67%	33%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	三省堂
教科書番号	文国702◆
教科書名	精選 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・第一部と第二部の冒頭に、文学に関する評論や随筆を掲載し、文学的文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、想像や心情を豊かにする言葉の働きについて理解したりできるよう工夫されている。 ・「文学を読むために」として、「語り手」「象徴と寓話」「筋（プロット）」などのテーマごとに7編のコラムが掲載され、文学的文章の特徴を体系的に理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを広げる」として、合計14の言語活動が設定されている。「書くこと」については、「小説を書き換える」「短歌を創作する」「翻案作品をつくる」「連詩をつくる」の4つの活動が設定されており、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開を工夫したり、独創的な文章を創作したりすることを学べるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌、戯曲などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・文学や日本の伝統文化などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「課題A」「課題B」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「広がる読書」として、「エッセイ」「ミステリー」「SF小説」などの種類ごとのコラムが5編掲載されている。 ・巻末に「読書への扉」が設けられ、各単元で扱った作品と関連する書籍が紹介されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	「無常ということ」において、日本の文学や文学者、歴史や時間などに対する作者の見方や考え方を通じて、我が国の伝統や文化に連なる人間の生き方について考えられるよう工夫されている。 ・「陰翳礼讃」において、日本の生活空間における暗さに触れ、日本の文化について考えられるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	・小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」の中で「数々の戦争、ホロコースト、チェルノブイリ、フクシマ……。」という記述がある。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	・小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」の中で、「本当なら、七五年めの原爆の日を、私たちは東京オリンピックの期間中に迎えるはずだった。」という記述がある。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して〜地方官吏の職を奉ずる」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・作者や作品を紹介する動画サイトにアクセスしたり、ワークシートダウンロードしたりできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザインに配慮して編集している。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について	夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について	村上春樹
少年という名前のメカ	少年という名前のメカ	松田青子	詩はいつでも近いところにある	詩はいつでも近いところにある	蜂飼耳
今日	今日	谷川俊太郎	麦わら帽子のへこみ	麦わら帽子のへこみ	穂村弘
わたしを束ねないで	わたしを束ねないで	新川和江	今はもうないものの光	今はもうないものの光	堀江敏幸
帰途	帰途	田村隆一	戯曲の中の「対話」	戯曲の中の「対話」	井上ひさし 平田オリザ
木に花咲き—短歌十五首		前田夕暮	文学の仕事	文学の仕事	加藤周一
木に花咲き—短歌十五首		河野裕子	お砂糖とスパイスと爆発的な何か	お砂糖とスパイスと爆発的な何か	北村紗衣
木に花咲き—短歌十五首		渡辺公男	小説はどう読めばいいの？—太宰治『斜陽』の語り口	小説はどう読めばいいの？—太宰治『斜陽』の語り口	阿部公彦
木に花咲き—短歌十五首		若山牧水	本を読むと路に迷う	本を読むと路に迷う	朝吹真理子
木に花咲き—短歌十五首		玉城徹	想像し物語ること	想像し物語ること	大江健三郎
木に花咲き—短歌十五首		小中英之	宇多田ヒカル論—世界の無限と交わる歌	宇多田ヒカル論—世界の無限と交わる歌	杉田俊介
木に花咲き—短歌十五首		窪田空穂	連詩の愉しみ	連詩の愉しみ	大岡信
木に花咲き—短歌十五首		前登志夫	ヤングの連句—半歌仙『赤城おろし』の巻	ヤングの連句—半歌仙『赤城おろし』の巻	宇咲冬男
木に花咲き—短歌十五首		上田三四二	死者の声を運ぶ小舟	死者の声を運ぶ小舟	小川洋子
木に花咲き—短歌十五首		土岐善麿	『雪国』の謎—一夜の底とは何か	『雪国』の謎—一夜の底とは何か	山本史郎
木に花咲き—短歌十五首		宮柊二	陰翳礼讃	陰翳礼讃	谷崎潤一郎
木に花咲き—短歌十五首		塚本邦雄	無常ということ	無常ということ	小林秀雄
木に花咲き—短歌十五首		加藤治郎	文体のもつ力	文体のもつ力	安藤宏
木に花咲き—短歌十五首		小島なお			
木に花咲き—短歌十五首		木下龍也			
ひよこの眼	ひよこの眼	山田詠美			
神様	神様	川上弘美			
ありときりぎりす	ありときりぎりす	佐野洋子			
セミとアリ	セミとアリ	未詳／河野与一			
姨捨	大和物語	未詳			
戯曲 書く女	戯曲 書く女	永井愛			
こころ	こころ	夏目漱石			
捨てない女	捨てない女	多和田葉子			
ペル・エポック	ペル・エポック	絲山秋子			
鞆	鞆	安部公房			
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治			
ギリシア的抒情詩	ギリシア的抒情詩	西脇順三郎			
のちのおもひに	のちのおもひに	立原道造			
渡り鳥—俳句十五句		上田五千石			
渡り鳥—俳句十五句		正木ゆう子			
渡り鳥—俳句十五句		小澤實			
渡り鳥—俳句十五句		高野素十			
渡り鳥—俳句十五句		富澤赤黄男			
渡り鳥—俳句十五句		西村和子			
渡り鳥—俳句十五句		種田山頭火			
渡り鳥—俳句十五句		篠原鳳作			
渡り鳥—俳句十五句		田中裕明			
渡り鳥—俳句十五句		渡辺白泉			
渡り鳥—俳句十五句		三橋敏雄			
渡り鳥—俳句十五句		金子兜太			
渡り鳥—俳句十五句		高浜虚子			
渡り鳥—俳句十五句		鷹羽狩行			
渡り鳥—俳句十五句		黒田杏子			
靴の話	靴の話	大岡昇平		男	女
夏の花	夏の花	原民喜	評論等	78%	22%
涙の贈り物	涙の贈り物	レベッカ・ブラウン／柴田元幸	小説等	47%	53%
檸檬	檸檬	梶井基次郎	詩歌	81%	19%
舞姫	舞姫	森鷗外	計	72%	28%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	三省堂
教科書番号	文国703◆
教科書名	新 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・資料編に「物語・小説読み解きツール」が設けられ、「語り手」「構成・展開」「場面設定」など12のテーマごとに、教科書掲載作品を例にポイントを図式化して掲載するなど、文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解できるよう工夫されている。 ・「探究教材」の中に「近代の文体をたどる」として、樋口一葉「雪の日」など明治時代の13の作品の一部が掲載され、近代の文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について音読しながら理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現プラザ」として、「みんなでつなぐりレー小説」「想像からの語り」「現代に甦る歌物語」「誘惑する書評」の4つの言語活動が設けられており、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する学習活動ができるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・文学や古典などに関する評論や随筆、古典文学の現代語訳などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「羅針盤」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生のための読書案内」として、12編のコラムが掲載されている。 ・資料編に「小さな図書館へようこそ」「探究のためのブックガイド」が掲載され、教科書内で取り上げた作品と関連する書籍が紹介されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「源氏物語―北山の垣間見」「項羽と劉邦―「史記」を読む」「古譚」「『虫めづる姫君』の観察眼」など古文・漢文の翻訳作品や古文・漢文に取材した作品などが掲載されており、我が国と他国それぞれの文化を尊重する態度を養えるよう工夫されている。 ・参考資料として「騒がず耐える日本人 揺さぶりたい」という文章が掲載され、コロナ禍における日本とドイツの反応の違いについて触れている。 ・「明治時代のスイーツ文豪男子」というコラムが掲載され、明治時代の文化の側面について理解できるよう工夫されている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～一地方官吏の職を奉ずる」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードを読み取ることで、作者や作品を紹介する動画サイトにアクセスしたり、ワークシートをダウンロードしたりできるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインに配慮して編集している。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
最初の質問	最初の質問	長田弘	意味以前の世界	意味以前の世界	谷川俊太郎
二十億光年の孤独	二十億光年の孤独	谷川俊太郎	虹の雌雄	虹の雌雄	蜂飼耳
RAIN	RAIN	SEKAI NO OWARI	作家の読書道	作家の読書道	青山七恵
予感	予感	青山七恵	石ならぬ中島敦	石ならぬ中島敦	三浦しをん
雉始雛	雉始雛	絲山秋子	皮膚と心	皮膚と心	藤崎彩織
近・現代の短歌	鳩子	石川不二子	<small>村上作品の比較表例・「バースデー・ガール」について</small>	<small>村上作品の比較表例・「バースデー・ガール」について</small>	村上春樹
近・現代の短歌	<small>春日井健百首 (大塚寅彦選)</small>	春日井健	夏目漱石、読んじやえば?	夏目漱石、読んじやえば?	奥泉光
近・現代の短歌	眼鏡屋は夕ぐれのため	佐藤弓生	物語もっと深読み教室	物語もっと深読み教室	宮川健郎
近・現代の短歌	行け広野へと	服部真理子	夢は何語で見る?	夢は何語で見る?	多和田葉子
近・現代の俳句	子規全集	正岡子規	「アンソロジー」を企画する	「アンソロジー」を企画する	東雅夫
近・現代の俳句	対馬康子集	対馬康子	正岡子規—もうひとつの顔	正岡子規—もうひとつの顔	長谷川權
近・現代の俳句	寒林	高柳克弘	和歌と物語	和歌と物語	谷知子
近・現代の俳句	木語	山田みづえ	<small>歴史から物語、そして歴史物語へ</small>	<small>歴史から物語、そして歴史物語へ</small>	秋山虔
山月記	山月記	中島敦	<small>ちりめんの赤色に映える恋の哀切</small>	<small>ちりめんの赤色に映える恋の哀切</small>	小川洋子
デューク	デューク	江國香織	大和言葉の柔らかさ	大和言葉の柔らかさ	俵万智
草之丞の話	草之丞の話	江國香織	川上作品をめぐって	川上作品をめぐって	岸本佐知子 川上弘美
少年という名前のメカ	少年という名前のメカ	松田青子	寂聴源氏塾	寂聴源氏塾	瀬戸内寂聴
バースデー・ガール	バースデー・ガール	村上春樹	<small>想像への畏敬—大和路をゆく</small>	<small>想像への畏敬—大和路をゆく</small>	リービ英雄
未知へ	未知へ	木村信子	ことばの不思議	ことばの不思議	穂村弘
夕焼け	夕焼け	吉野弘	映画「夜のピクニック」	映画「夜のピクニック」	<small>長澤雅彦 三澤康子 恩田陸 多田未華子 池上冬樹</small>
売炭翁	売炭翁	白居易	いちまいの絵	いちまいの絵	原田マハ
こころ	こころ	夏目漱石	「虫めづる姫」の観察眼	「虫めづる姫」の観察眼	中村桂子
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治	<small>卵を抱きながら、もしくは、くせになる翻訳</small>	<small>卵を抱きながら、もしくは、くせになる翻訳</small>	松永美穂
たけくらべ	たけくらべ	樋口一葉／川上未映子	珊瑚のリング	珊瑚のリング	吉本ばなな
古典和歌 四首	万葉集	狭野弟上娘子	「旅する本」の「まえがき」	「旅する本」の「まえがき」	石田衣良
古典和歌 四首	後拾遺和歌集	和泉式部	文学の未来	文学の未来	小野正嗣
古典和歌 四首	新勅撰和歌集	藤原定家			
古典和歌 四首	金槐和歌集	源実朝			
近世俳句 四句	続虚栗	松尾芭蕉			
近世俳句 四句	蕪村句集	与謝蕪村			
近世俳句 四句	枇杷園句集	井上士朗			
近世俳句 四句	八番日記	小林一茶			
伊勢物語	伊勢物語	未詳／田辺聖子			
項羽と劉邦—『史記』を読む	項羽と劉邦—『史記』を読む	尾形勇			
鴻門の会(「史記」より)	史記	司馬遷／大木康			
花山天皇の退位—『大鏡』を読む	花山天皇の退位—『大鏡』を読む	永井路子			
栄花物語—花山院の出家	栄花物語	未詳／編集委員会			
月火水木金土日	月火水木金土日	川上弘美			
源氏物語—北山の垣間見	源氏物語	紫式部／角田光代			
鞆	鞆	安部公房			
夕鶴	夕鶴	木下順二			
竹取物語—かぐや姫の昇天	竹取物語	未詳／森見登美彦			
マンガ古典文学 竹取物語	竹取物語	池田理代子			
ピクニックの準備	ピクニックの準備	恩田陸			
雨月物語—浅茅が宿	雨月物語	上田秋成／石川淳			
方丈記—養和の飢饉・大地震	方丈記	鴨長明／三木卓			
古譚	古譚	茨木のり子			
桃花源記	桃花源記	陶潜			
堤中納言物語—虫好きのお姫様	堤中納言物語	未詳／中島佳子			
星の王子さま	星の王子さま	サン＝テグジュペリ／内藤濯		男	女
藤野先生	藤野先生	魯迅／竹内好	評論等	44%	56%
ナガサキの郵便配達	ナガサキの郵便配達	ピーター・タウゼント／間庭恭人	小説等	60%	40%
山椒魚	山椒魚	井伏鱒二	詩歌	65%	35%
旅する本	旅する本	石田衣良	計	56%	44%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	大修館
教科書番号	文国704◆
教科書名	文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「語句と漢字」「ことばと表現」が設けられ、漢字や語彙、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・第Ⅰ部と第Ⅱ部の間に「文学を読むために」として、「物語の構造」「登場人物の状況」「文体と表現」など、9つのテーマを扱った教材が掲載され、文学を読むために必要な知識・技能が身に付くように工夫されている。 ・「文体の変遷」として、福沢諭吉「学問のすゝめ」など、明治初期から大正にかけての13の作品の一部が掲載され、文体の変遷を例文を読みながら体系的に理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「体験に基づいて書く」「情景を描写する」「構成を考えて書く」「心情を描写する」「手紙を書く」「視点を考えて書く」「ショートストーリーを書く」の7つの言語活動が設けられており、題材に応じて情報を収集、整理して、文章にまとめる学習を通して、書くことを体系的に学ぶことができるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・人生や自然、文化や伝統などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習のポイント」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学の扉」として、「文学とは何か」「作品に現れる動物」など7編のコラムが掲載されている。 ・各教材末に「著作案内」が載っており、著者による別の作品が紹介されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「山月記」と「人虎伝」を読み比べる課題が設定され、比較しながらそれぞれの文化を尊重する考えをもてるよう工夫されている。 ・「月の誤訳」において、翻訳を通じて、日本語とドイツ語それぞれがもつ言葉の豊かさを考えられるように工夫されている。 ・「私の日本住居論」において、欧米人から見た日本の生活様式の特徴に触れることで、日本の伝統的な暮らしについて考えられるよう工夫されている。 ・「陰翳礼讃」において、日本の生活空間における暗さに触れ、日本の文化について考えられるよう工夫されている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊豆の踊子」において「あんな者、どこで泊まるやらわかるものでございますか、旦那様。」という旅芸人に対する表現がある。
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～一地方官吏の職を奉ずる」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・角田光代「鍋セット」で、「女性誌の「男がよるこぶ料理」特集の上位～」「男を釣るのは胃袋だと～」という記述が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。 ・平田オリザ「手紙」で、「女なんかはよく、ワンダフルなどと愚にもつかないお世辞を言う。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・作者や作品を紹介する動画サイトにアクセスしたり、朗読の音声をダウンロードしたりできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
旅する本	旅する本	石田衣良	飛ぶことを知っている魂	飛ぶことを知っている魂	梨木香歩
巨人の接待	巨人の接待	小川洋子	十八歳の選択	十八歳の選択	朝井リョウ
山月記	山月記	中島敦	旅する本について	旅する本について	石田衣良
山椒魚	山椒魚	井伏鱒二	鹿を追いかけて	鹿を追いかけて	小池昌代
離さない	離さない	川上弘美	浄瑠璃寺の春	浄瑠璃寺の春	堀辰雄
かもしか	かもしか	小池昌代	月の誤訳	月の誤訳	多和田葉子
こころ	こころ	夏目漱石	私の日本住居論	私の日本住居論	ドナルド・キーン
美神	美神	三島由紀夫	共感と驚異	共感と驚異	穂村弘
アルプスの少女	アルプスの少女	石川淳	桜の中で、時が重なり合う	桜の中で、時が重なり合う	平野啓一郎
竹	竹	萩原朔太郎	負の座標に向かって	負の座標に向かって	堀江敏幸
小景異情	小景異情	室生犀星	藤	藤	幸田文
きみの呼びかけに	きみの呼びかけに	ラビンドラナート・タゴール／内山真理子	陰翳礼讃	陰翳礼讃	谷崎潤一郎
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治	闇と光	闇と光	高畑勲
短歌十三首		吉井勇	物語る声を求めて	物語る声を求めて	津島佑子
短歌十三首		木下利玄	「遊び」の伝統	「遊び」の伝統	尼ヶ崎彬
短歌十三首		宮柊二			
短歌十三首		佐藤佐太郎			
短歌十三首		木俣修			
短歌十三首		塚本邦雄			
短歌十三首		岡井隆			
短歌十三首		斎藤史			
短歌十三首		河野裕子			
短歌十三首		佐佐木幸綱			
短歌十三首		高野公彦			
短歌十三首		俵万智			
短歌十三首		水原紫苑			
俳句十五句		川端茅舎			
俳句十五句		飯田龍太			
俳句十五句		高野素十			
俳句十五句		久保田万太郎			
俳句十五句		大野林火			
俳句十五句		荻原井泉水			
俳句十五句		尾崎放哉			
俳句十五句		杉田久女			
俳句十五句		鷹羽狩行			
俳句十五句		松本たかし			
俳句十五句		金子兜太			
俳句十五句		西東三鬼			
俳句十五句		橋本多佳子			
俳句十五句		秋元不死男			
俳句十五句		黛まどか			
鍋セット	鍋セット	角田光代			
桔梗くんへ	桔梗くんへ	川上未映子			
赤い繭	赤い繭	安部公房			
掟の門	掟の門	フランツ・カフカ／池内紀			
檸檬	檸檬	梶井基次郎			
待つ	待つ	太宰治		男	女
舞姫	舞姫	森鷗外	評論等	67%	33%
冥途	冥途	内田百閒	小説等	78%	22%
伊豆の踊り子	伊豆の踊り子	川端康成	詩歌	76%	24%
手紙	手紙	平田オリザ	計	74%	26%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	大修館
教科書番号	文国705◆
教科書名	新編 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「語句と漢字」が設けられ、漢字や語彙についての理解を深められるよう工夫されている。 ・巻頭に「文学の扉を開こう」が設けられ、「文学的な文章とは?」「場面設定を押さえる」「場面の展開を追う」など、7つのテーマを扱った教材が掲載され、文学を読むために必要な知識・技能が身に付くように工夫されている。 ・「ことのは」として、「比喩」「オノマトペ」「文体」「語り手・視点」など、9つの短いうコラムが設けられ、文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉でスケッチ」「思いを言葉に」「十七音のパズル」「物語を紡ぐ」「思い出を形に」という5つの言語活動が設定されており、題材に応じて情報を収集、整理して、文章にまとめる学習を通して、書くことを体系的に学ぶことができるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌、戯曲などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・人間や社会、文化などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習のポイント」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「作家と作品」が設定され、関連図書を紹介する「読んでみよう」が設けられている。 ・「文学の窓」として、テーマごとに文学の解説が掲載され、その中の「ブックガイド」で関連する書籍が紹介されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「古典の世界」として、「醒睡笑」「沙石集」「枕草子」「源氏物語」「史記」など10の古典教材が掲載され、我が国の伝統や文化について理解を深めることができるよう工夫されている。 ・「恋のうた」という単元が設けられ、万葉集、白氏文集といった古典から中島みゆきの歌詞まで「恋」をテーマに比較しながら考えることで、我が国の伝統や文化について考えることができるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・江國香織「晴れた空の下で」で「婆さんが玉子焼きを作る」という記述が見られる。 ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～一地方官吏の職を奉ずる」という記述が見られる。 ・浅田次郎「鉄道員」で、「私、鉄道の人のお嫁さんになるのが夢だから、こつたらふうに手早く作れねばだめしょ。」という記述が見られる。 ・藤沢周平「おぼろ月」で、「嫁に行くのが一番」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・作者や作品を紹介する動画サイトにアクセスしたり、朗読の音声をダウンロードしたりできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
ナイン	ナイン	井上ひさし	少なくとも最後まで歩かなかった	少なくとも最後まで歩かなかった	村上春樹
晴れた空の下で	晴れた空の下で	江國香織	そとみとなかみ	そとみとなかみ	角田光代
星取り	醒睡笑	安楽庵策伝	きょうも海苔弁	きょうも海苔弁	平松洋子
児の飴食ひたること	沙石集	無住	身内ほど厄介なものはない	身内ほど厄介なものはない	米原万里
道程	道程	高村光太郎	柿	柿	畠中恵
小景異情	小景異情	室生犀星	ぼくのお母さん	ぼくのお母さん	川上未映子
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治	ムーミンのマグカップ	ムーミンのマグカップ	村田沙耶香
コスモス	コスモス	吉田加南子	運ばれてくるもの	運ばれてくるもの	江國香織
山月記	山月記	中島敦	はしたなきもの	枕草子	清少納言
かぐや姫の昇天	伊勢物語	未詳	手のわろき人の	徒然草	兼好法師
月やあらぬ	竹取物語	未詳	行く河の流れ	方丈記	鴨長明
神去なあなあ日常	神去なあなあ日常	三浦しをん	飛ぶことを知っている魂	飛ぶことを知っている魂	梨木香歩
靴	靴	安部公房	クルミの小部屋	クルミの小部屋	河野裕子
その日東京駅五時二十五分発	その日東京駅五時二十五分発	西川美和	夏の月	夏の月	高階秀爾
さくら日和	さくら日和	辻村深月	共感と驚異	共感と驚異	穂村弘
鉄道員	鉄道員	浅田次郎	四面楚歌	史記	司馬遷
現代の恋	糸	中島みゆき			
現代の恋		永田紅			
現代の恋		俵万智			
現代の恋		黛まどか			
近代の恋	初恋	島崎藤村			
近代の恋		与謝野晶子			
近代の恋		橋本多佳子			
近代の恋	樹下の二人	高村光太郎			
近代の恋		石川啄木			
近代の恋		中村草田男			
古典の恋	万葉集	大伴坂上郎女			
古典の恋	古今和歌集	小野小町			
古典の恋	拾遺和歌集	藤原敦忠			
古典の恋	閑吟集	未詳			
古典の恋		小林一茶			
古典の恋	長恨歌	白居易			
待合室	待合室	内海隆一郎			
おぼろ月	おぼろ月	藤沢周平			
桐壺	源氏物語	紫式部			
若紫	源氏物語	紫式部			
短歌		北原白秋			
俳句		高浜虚子			
俳句		原石鼎			
俳句		尾崎放哉			
短歌		正岡子規			
短歌		長塚節			
短歌		与謝野晶子			
短歌		北原白秋			
短歌		斎藤茂吉			
短歌		石川啄木			
短歌		前田夕暮			
短歌		会津八一			
短歌		寺山修司			
短歌		俵万智			
俳句		高浜虚子			
俳句		水原秋桜子			
俳句		山口誓子			
俳句		中村草田男			
俳句		石田波郷			
俳句		加藤楸邨			
俳句		中村汀女			
俳句		種田山頭火			
俳句		尾崎放哉			
俳句		金子兜太			
俳句		鷹羽狩行			
山椒魚	山椒魚	井伏鱒二			
離さない	離さない	川上弘美			
能登殿最期	平家物語	未詳			
ころろ	ころろ	夏目漱石	評論等	男	63%
私たちの黄色	私たちの黄色	角田光代	小説等	63%	37%
タイムリミット	タイムリミット	朝井リョウ	詩歌	72%	28%
書齋	書齋	眉村卓	計	62%	38%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	数研
教科書番号	文国706◆
教科書名	文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「ことばと表現」が設けられ、漢字や語彙、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・「チェックポイント」として「小説とはどのようなものか」「心情を読み取る」「詩歌を味わう」「表現の仕方に注目する」「隠れた心情まで読み取る」という5つのテーマの教材を設け、文学的な文章やそれに関する文章の特徴、文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解できるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「短歌」「俳句」の教材において、短歌や俳句を作る言語活動が設定されており、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、独創的な文章が書くことができるように工夫されている。 ・「文学的文章の創作」において、湊かなえ「物語のおわり」を題材として連作小説を創作する言語活動が設けられ、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫して創作することを学ぶことができるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌、戯曲などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・文学に関する評論を通して、文学に対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習」「言語活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えるなど、読むことについて体系的に学ぶことができる構成になっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「関連書籍」という項目やコラムが設けられている。 ・「ズームアップ」というコラムが設けられ、テーマごとに関連する書籍や作家が紹介されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「山月記」と「人虎伝」を読み比べる課題が設定され、比較しながらそれぞれの文化を尊重する考えをもてるよう工夫されている。 ・「古典と現代訳」として「源氏物語」とその訳文が取り上げられ、古典と現代語訳を比較しながら我が国の伝統や文化について理解を深めることができるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	・「大衆が支持した文学」というコラムで、「一九六四(昭和三九)年には、東海道新幹線が開業し、東京オリンピックも開催された。」という記述がある。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・角田光代「鍋セット」で、「女性誌の『男がよろこぶ料理』特集の上位～」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、たとひ彼に誠ありとも、たとひ情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・作者や作品を紹介する動画サイトにアクセスしたり、朗読の音声や小テスト問題をダウンロードしたりできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	・カラーユニバーサルデザインに配慮している。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	現代日本の開化	現代日本の開化	夏目漱石
人虎伝	人虎伝	李景亮	文学のふるさと	文学のふるさと	坂口安吾
鍋セット	鍋セット	角田光代	演技する「私」	演技する「私」	安藤宏
無用の人	無用の人	原田マハ			
ナイン	ナイン	井上ひさし			
三月の風	三月の風	阿部昭			
山椒魚	山椒魚	井伏鱒二			
水仙	水仙	太宰治			
忠直卿行状記	忠直卿行状記	菊池寛			
こころ	こころ	夏目漱石			
小諸なる古城のほとり	小諸なる古城のほとり	島崎藤村			
永訣の朝	永訣の朝	宮澤賢治			
表札	表札	石垣りん			
発車	発車	吉原幸子			
短歌		斎藤茂吉			
短歌		釈迺空			
短歌		斎藤史			
短歌		岡井隆			
短歌		河野裕子			
短歌		佐佐木幸綱			
短歌		栗木京子			
短歌		水原紫苑			
俳句		高浜虚子			
俳句		尾崎放哉			
俳句		橋本多佳子			
俳句		西東三鬼			
俳句		篠原鳳作			
俳句		石田波郷			
俳句		金子兜太			
俳句		鷹羽狩行			
物語のおわり	物語のおわり	湊かなえ			
源氏物語	源氏物語	紫式部／与謝野晶子			
源氏物語	源氏物語	紫式部／谷崎潤一郎			
源氏物語	源氏物語	紫式部／角田光代			
源氏物語	源氏物語	紫式部			
窯変源氏物語	窯変源氏物語	橋本治			
ひよこの眼	ひよこの眼	山田詠美			
クリーム	クリーム	村上春樹			
赤い繭	赤い繭	安部公房			
野火	野火	大岡昇平			
檸檬	檸檬	梶井基次郎			
秘やかな楽しみ	秘やかな楽しみ	梶井基次郎			
瀬山の話	瀬山の話	梶井基次郎			
件	件	内田百閒			
舞姫	舞姫	森鷗外			
掟の門前	掟の門前	フランツ・カフカ	評論等	100%	0%
藤野先生	藤野先生	魯迅／竹内好	小説等	77%	23%
『呐喊』自序	『呐喊』自序	魯迅／竹内好	詩歌	67%	33%
父帰る	父帰る	菊池寛	計	74%	26%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	明治
教科書番号	文国707◆
教科書名	精選 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「言葉と表現」が設けられ、漢字や語彙、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・「小説文の形式」「〈文学〉の領域を更新する」「川柳の現在」など、6編のコラムが掲載され、文学的な文章の種類や特徴、文体や表現技法などについての理解を深めることができるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元の言語活動」として、複数の作品を横断的に扱う言語活動が設定されており、その中で「小説の方法を読む—『形』に着目して書く—」「言葉との出会い」に関する、自分の忘れられない思い出を、手紙・手記・エッセイ、いずれかの形式で表現」「俳句を詠んでみる」「戦争という〈出来事〉を伝える」など、小説・手紙・エッセイ・コラム、短歌や俳句などの創作を通して、文章の構成や展開についてを学ぶことができるよう工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・文学、戦争、都市、文化などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習のポイント」「言語活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉えるなど、構造と内容の把握から精査・解釈、考えの形成、共有まで読むことを体系的に学ぶことができる構成となっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学の窓」として、三島由紀夫「小説とは何か」、谷崎潤一郎「陰翳礼讃」など、各単元のテーマと関連する、著名な作家の9編の文章が掲載されている。 ・「本を読む楽しみ」というコラムが掲載されている。 ・巻末に「世界の文学はすばらしい—明日への読書のために—」というコラムが設けられている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「『東京語』の表象の成立」のなかで、「標準語」と「東京語」について考えることで、我が国の文化について理解できるよう工夫されている。 ・「山月記」と「人虎伝」を読み比べる課題が設定され、比較しながらそれぞれの文化を尊重する考えをもてるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「押絵と旅する男」のなかで「啞」という言葉が使われ、注により「差別的な表現として、現在では使われない。」と述べられている。
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～」という記述が見られる。 ・石垣りん「崖」で、「女」は「美德や義理やら体裁」などに「追いつめられて」という記述が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、たとひ彼に誠ありとも、たとひ情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	記載なし
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
言葉によって	言葉によって	大江健三郎	小説とは何か	小説とは何か	三島由紀夫
悪童日記	悪童日記	アゴタ・クリストフ／堀茂樹	詩の自由を探る	詩の自由を探る	藤井貞和
山月記	山月記	中島敦	詩的リズム	詩的リズム	菅谷規矩雄
秋の祈	秋の祈	高村光太郎	マンガは哲学する	マンガは哲学する	永井均
雪	雪	三好達治	映画の中の花	映画の中の花	西川美和
汚れつちまつた悲しみに……	汚れつちまつた悲しみに……	中原中也	夏目漱石・芥川龍之介往復書簡	夏目漱石・芥川龍之介往復書簡	夏目漱石 芥川龍之介
崖	崖	石垣りん	「東京語」の表象の成立	「東京語」の表象の成立	イ・ヨンスク
鞆	鞆	安部公房	群れず集まる	群れず集まる	田中和将
地球から来た男	地球から来た男	星新一	短歌の輪郭	短歌の輪郭	小池光
押絵と旅する男	押絵と旅する男	江戸川乱歩	『桐の花』の言葉	『桐の花』の言葉	俵万智
こころ	こころ	夏目漱石	現場に来て初めてわかること	現場に来て初めてわかること	高野秀行
山東京伝	山東京伝	内田百閒	転移する記憶	転移する記憶	岡真理
短歌十二首		釈迢空	本を読む	本を読む	蜂飼耳
短歌十二首		山崎方代	陰翳礼讃	陰翳礼讃	谷崎潤一郎
短歌十二首		塚本邦雄	都市は／を語る	都市は／を語る	石田英敬
短歌十二首		馬場あき子	みづの上日記	みづの上日記	樋口一葉
短歌十二首		栗木京子	日和下駄	日和下駄	永井荷風
短歌十二首		穂村弘	物語と歴史のあいだ	物語と歴史のあいだ	野家啓一
俳句十二句		村上鬼城	はじめての沖縄	はじめての沖縄	岸政彦
俳句十二句		河東碧梧桐	愛について	愛について	竹村和子
俳句十二句		尾崎放哉	俳句の力学	俳句の力学	岸本尚毅
俳句十二句		原石鼎	底荷		上田三四二
俳句十二句		杉田久女	一瞬の共同性を生きる	一瞬の共同性を生きる	星野智幸
俳句十二句		芥川龍之介	日本文化私観	日本文化私観	坂口安吾
俳句十二句		高野素十	現代日本の開化	現代日本の開化	夏目漱石
俳句十二句		後藤夜半			
俳句十二句		川端茅舎			
俳句十二句		中村汀女			
俳句十二句		篠原鳳作			
俳句十二句		高屋窓秋			
空缶	空缶	林京子			
野火	野火	大岡昇平			
檸檬	檸檬	梶井基次郎			
下町	下町	林芙美子			
歩道橋の魔術師	歩道橋の魔術師	呉明益			
流れる髪	流れる髪	永瀬清子			
羨望	羨望	伊東静雄			
独楽	独楽	高野喜久雄			
韜晦	韜晦	多田智満子			
高度	高度	小池昌代			
秋	秋	ライナー・マリア・リルケ／茅野満々			
舞姫	舞姫	森鷗外			
入れ札	入れ札	菊池寛			
巨人の接待	巨人の接待	小川洋子			
アイデンティティ	アイデンティティ	藤野可織			
短歌十四首		木下利玄			
短歌十四首		会津八一			
短歌十四首		岡井隆			
短歌十四首		河野裕子			
短歌十四首		福島泰樹			
短歌十四首		水原紫苑			
短歌十四首		斉藤斎藤			
俳句十二句		高浜虚子			
俳句十二句		加藤楸邨			
俳句十二句		石田波郷			
俳句十二句		桂信子			
俳句十二句		森澄雄			
俳句十二句		飯田龍太			
俳句十二句		三橋敏雄			
俳句十二句		飯島晴子			
俳句十二句		高柳重信			
俳句十二句		池田澄子	評論等	71%	29%
俳句十二句		正木ゆう子	小説等	67%	33%
俳句十二句		田中裕明	詩歌	70%	30%
苦海浄土	苦海浄土	石牟礼道子	計	70%	30%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	筑摩
教科書番号	文国708◆
教科書名	文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「表現」が設けられ、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・「読解の窓」として、「自分の殻・他者の壁」「メディアと身体」「小説の中の会話」など、41編も短いコラムが掲載され、文学的な文章の種類や特徴、文体や表現技法、文学的な文章で扱われる現代的な課題などについての理解を深めることができるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・「構成と展開を工夫して、変身物語を書こう」「詩歌から発想を広げ、小説を書こう」「『編集』という表現方法を楽しもう」「創作の背景について調べよう」という「書くこと」の言語活動が設定されており、文学的な文章を書くために選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなど、題材の設定から構成の検討、推敲、共有まで書くことを学ぶことができる構成になっている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・人間や社会、文化や芸術、文学や伝統などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉えるなど、構造と内容の把握から精査・解釈、考えの形成、共有まで読むことを体系的に学ぶことができる構成となっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各部末に「読書案内」が設けられ、「新たな視野を手に入れる」「より深く追究する」というテーマで関連する書籍を紹介している。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「陰翳礼讃」「無常ということ」「金縷いの景色」において、我が国と他国の違いや、我が国固有のものの捉え方について言及され、我が国の文化を尊重する態度を養うことができるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・川上弘美「神様」の「参考」として、福島第一原発事故後の世界に置き換えた「神様2011」を掲載している。 ・「金縷いの景色」という随想で、「金継ぎへの人びとの関心は東日本大震災後に急速に高まった」という記述がある。 ・小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」の中で「数々の戦争、ホロコースト、チェルノブイリ、フクシマ……。」という記述がある。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小川洋子「死者の声を運ぶ小舟」の中で、「本当なら、七五年めの原爆の日を、私たちは東京オリンピックの期間中に迎えるはずだった。」という記述がある。
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～」という記述が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する資料や書籍を紹介するサイトにアクセスできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインフォントが採用されている。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	プラスチック膜を破って	プラスチック膜を破って	梨木香歩
神様	神様	川上弘美	情報の彫刻	情報の彫刻	原研哉
神様2011	神様2011	川上弘美	バイリンガリズムの政治学	バイリンガリズムの政治学	今福龍太
こころ	こころ	夏目漱石	実体の美と状況の美	実体の美と状況の美	高階秀爾
小景異情	小景異情	室生犀星	メディアと倫理	メディアと倫理	和田伸一郎
サーカス	サーカス	中原中也	ラムネ氏のこと	ラムネ氏のこと	坂口安吾
永訣の朝	永訣の朝	宮澤賢治	異なり記念日	異なり記念日	齋藤陽道
短歌		正岡子規	記号論と生のリアリティ	記号論と生のリアリティ	立川健二
短歌		与謝野晶子	金縷いの景色	金縷いの景色	藤原辰史
短歌		釈道空	私の個人主義	私の個人主義	夏目漱石
短歌		齋藤史	死者の声を運ぶ小舟	死者の声を運ぶ小舟	小川洋子
短歌		近藤芳美	論語—私の古典	論語—私の古典	高橋和巳
短歌		山崎方代	空と風と星と詩	空と風と星と詩	茨木のり子
短歌		岡井隆	未来を作る言葉	未来を作る言葉	ドミニク・チェン
短歌		馬場あき子	建築論ノート	建築論ノート	松山巖
短歌		河野裕子	能 時間の様式	能 時間の様式	杉本博司
短歌		李正子	化物の進化	化物の進化	寺田寅彦
短歌		穂村弘	文学の仕事	文学の仕事	加藤周一
死にたまふ母	死にたまふ母	斎藤茂吉	小説とは何か	小説とは何か	三島由紀夫
捨てない女	捨てない女	多和田葉子	遠野物語	遠野物語	柳田國男
魂込め	魂込め	目取真俊	陰翳礼讃	陰翳礼讃	谷崎潤一郎
舞姫	舞姫	森鷗外	みづの上日記	みづの上日記	樋口一葉
鞆	鞆	安部公房	〈うだてき〉場所の言葉	〈うだてき〉場所の言葉	吉田文憲
水仙	水仙	太宰治	絵画は紙幣に憧れる	絵画は紙幣に憧れる	槇木野衣
王国	王国	津村記久子	隠れん坊の精神史	隠れん坊の精神史	藤田省三
無題	無題	吉原幸子	無常ということ	無常ということ	小林秀雄
旅情	旅情	石垣りん	骨とまぼろし	骨とまぼろし	真木悠介
N森林公園の冬	N森林公園の冬	北村太郎	ある〈共生〉の経験から	ある〈共生〉の経験から	石原吉郎
俳句		村上鬼城	<small>表音は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか</small>	<small>表音は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか</small>	渡辺一夫
俳句		尾崎放哉	チャンピオンの定義	チャンピオンの定義	大江健三郎
俳句		久保田万太郎			
俳句		川端茅舎			
俳句		橋本多佳子			
俳句		篠原鳳作			
俳句		細見綾子			
俳句		金子兜太			
俳句		飯田龍太			
俳句		高柳重信			
俳句		鷹羽狩行			
俳句		夏石番矢			
藤野先生	藤野先生	魯迅			
沈黙	沈黙	村上春樹			
				男	女
			評論等	87%	13%
			小説等	73%	27%
			詩歌	70%	30%
			計	77%	23%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	第一
教科書番号	文国709◆
教科書名	高等学校 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に、「学習の手引き」が設けられ、文学的な文章の種類や特徴、文体や表現技法などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「言葉の手引き」が設けられ、漢字や語彙、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、扱った作品に関連して「書くこと」につながるよう課題が設定され、文学的な文章を書くために情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなど、書くことを学ぶことができる構成になっている。 ・「創作をする」という単元が設けられ、「物語を創造する」「テーマを決めて短歌・俳句を作る」「古典を基にして物語を作る」という3つの活動が設定されており、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、独創的な文章が書くことができるように工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・芸術、戦争、文学などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉えるなど、構造と内容の把握から精査・解釈、考えの形成、共有まで読むことを体系的に学ぶことができる構成となっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各小説教材の末尾に「文学のしるべ」として、作者に関するコラムと関連する書籍を紹介する短い文章が掲載されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・日本の伝統文化を論じた「花のいざない」を通じて、我が国の伝統や文化について理解を深めることができるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・太宰治「葉桜と魔笛」で、「あのような苦しみは、年頃の女の人でなければ、わからない」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・関連する資料を紹介するサイトにアクセスできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む)に配慮している。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
山月記	山月記	中島敦	花のいざない	花のいざない	観世寿夫
檸檬	檸檬	梶井基次郎	真珠の耳飾りの少女	真珠の耳飾りの少女	原田マハ
小諸なる古城のほとり	小諸なる古城のほとり	島崎藤村	フェルメールの技を読む	フェルメールの技を読む	朽木ゆり子・福岡伸一
風船乗りの夢	風船乗りの夢	萩原朔太郎	わからないからおもしろい	わからないからおもしろい	木内昇
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治	もしも、詩があったら	もしも、詩があったら	アーサー・ビナード
旅する本	旅する本	角田光代	物語を発現する力	物語を発現する力	佐藤雅彦
富嶽百景	富嶽百景	中島京子			
こころ	こころ	夏目漱石			
葉桜と魔笛	葉桜と魔笛	太宰治			
バグダッドの靴磨き	バグダッドの靴磨き	米原万里			
わたしが一番きれいだったとき	わたしが一番きれいだったとき	茨木のり子			
死んだ男の残したものは	死んだ男の残したものは	谷川俊太郎			
春－イラクの少女シャミラに	春－イラクの少女シャミラに	柴田三吉			
棒	棒	安部公房			
骰子の七の目	骰子の七の目	恩田陸			
のちのおもひに	のちのおもひに	立原道造			
足と心	足と心	中桐雅夫			
ちがう人間ですよ	ちがう人間ですよ	長谷川龍生			
舞姫	舞姫	森鷗外			
枯野抄	枯野抄	芥川龍之介			
血であがなったもの	血であがなったもの	大田昌秀			
夏の花	夏の花	原民喜			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		真鍋正男			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		島田修二			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		坪野哲久			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		原阿佐緒			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		大西泰世			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		折笠美秋			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		原石鼎			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高浜虚子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		大西民子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		北原白秋			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		斎藤茂吉			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		島木赤彦			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		皆吉司			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		沢木欣一			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		山口誓子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		富安風生			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		小島ゆかり			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		永田和宏			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		富小路禎子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		筏井嘉一			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		坪内稔典			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		飯田龍太			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		加藤楸邨			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		永田耕衣			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		寺山修司			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		前登志夫			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		塚本邦雄			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		山崎方代			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		長谷川權			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		能村登四郎			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		篠原鳳作			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		種田山頭火			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		俵万智			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		河野裕子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高野公彦			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		石川啄木		男	女
テーマを決めて短歌・俳句を作る		鷹羽狩行	評論等	60%	40%
テーマを決めて短歌・俳句を作る		星野立子	小説等	69%	31%
テーマを決めて短歌・俳句を作る		中村草田男	詩歌	82%	18%
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高野素十	計	78%	22%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	第一
教科書番号	文国710◆
教科書名	高等学校 標準文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に、「学習の手引き」が設けられ、文学的な文章の種類や特徴、文体や表現技法などについて理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に「言葉の手引き」が設けられ、漢字や語彙、言葉遣いや表現の技法などについての理解を深められるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、扱った作品に関連して「書くこと」につながる課題が設定され、文学的な文章を書くために情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなど、書くことを学ぶことができる構成になっている。 ・「創作をする」という単元が設けられ、「物語を創造する」「テーマを決めて短歌・俳句を作る」「古典を基にして物語を作る」という3つの活動が設定されており、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、独創的な文章を書くことができるように工夫されている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・芸術、戦争、文学などに関する評論や随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習の手引き」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉えるなど、構造と内容の把握から精査・解釈、考えの形成、共有まで読むことを体系的に学ぶことができる構成となっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各小説教材の末尾に「文学のしるべ」として、作者に関するコラムと関連する書籍を紹介する短い文章が掲載されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・日本の伝統文化を論じた「花のいざない」を通じて、我が国の伝統や文化について理解を深めることができるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～」という記述が見られる。 ・魚住直子「卒業」で、「女だからすぐ予防に異動するだろうとか」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・関連する資料を紹介するサイトにアクセスできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	・ユニバーサルデザイン(カラーバリアフリーを含む。)に配慮している。

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
調律師のるみ子さん	調律師のるみ子さん	いしいしんじ	花のいざない	花のいざない	観世寿夫
デューク	デューク	江國香織	真珠の耳飾りの少女	真珠の耳飾りの少女	原田マハ
生命は	生命は	吉野弘	フェルメールの技を読む	フェルメールの技を読む	朽木ゆり子・福岡伸一
そこにひとつの席が	そこにひとつの席が	黒田三郎	物語を創造する	物語を創造する	佐藤雅彦
食事	食事	高階紀一			
相棒	相棒	内海隆一郎			
ナイン	ナイン	井上ひさし			
鼻	鼻	芥川龍之介			
ころろ	ころろ	夏目漱石			
バグダッドの靴磨き	バグダッドの靴磨き	米原万里			
わたしが一番きれいだったとき	わたしが一番きれいだったとき	茨木のり子			
死んだ男の残したものは	死んだ男の残したものは	谷川俊太郎			
春—イラクの少女シャミラに	春—イラクの少女シャミラに	柴田三吉			
旅する本	旅する本	角田光代			
富獄百景	富獄百景	中島京子			
山月記	山月記	中島敦			
清兵衛と瓢箪	清兵衛と瓢箪	志賀直哉			
ころろ	ころろ	萩原朔太郎			
汚れつちまつた悲しみに・・・	汚れつちまつた悲しみに・・・	中原中也			
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治			
卒業	卒業	魚住直子			
ひよこの眼	ひよこの眼	山田詠美			
血であがなったもの	血であがなったもの	大田昌秀			
夏の花	夏の花	原民喜			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		真鍋正男			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		島田修二			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		坪野哲久			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		原阿佐緒			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		大西泰世			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		折笠美秋			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		原石鼎			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高浜虚子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		大西民子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		北原白秋			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		斎藤茂吉			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		島木赤彦			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		皆吉司			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		沢木欣一			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		山口誓子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		富安風生			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		小島ゆかり			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		永田和弘			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		富小路禎子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		筏井嘉一			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		坪内稔典			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		飯田龍太			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		加藤楸邨			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		永田耕衣			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		寺山修司			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		前登志夫			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		塚本邦夫			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		山崎方代			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		長谷川權			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		能村登四郎			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		篠原鳳作			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		種田山頭火			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		俵万智			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		河野裕子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高野公彦			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		石川啄木			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		鷹羽狩行			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		星野立子			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		中村草田男			
テーマを決めて短歌・俳句を作る		高野素十			
				男	女
			評論等	67%	33%
			小説等	61%	39%
			詩歌	83%	17%
			計	76%	24%

教科名	国語
科目名	文学国語

※「教科書番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

発行者（略称）	桐原
教科書番号	文国711◆
教科書名	探求 文学国語
(1) 内容	
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成（各教科共通）	
【言葉の特徴や使い方に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・「小説コラム」「詩コラム」として、5編のコラムが設けられ、文体の特徴や表現技法、文学的な文章の種類や特徴などについての理解を深められるよう工夫されている。 ・各教材末に設けられた「学習の手引き」の中に「表現」が設定され、文体の特徴や表現技法の理解を深められるよう工夫されている。 ・「小道具と時代背景」として、「固定電話」「電報」「ラジオ」「肺結核」「官費留学」という5つのコラムが掲載され、文学的な文章で扱われる小道具を通じて時代背景の理解を深めることができるよう工夫されている。
【書くこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末の「学習の手引き」に「書く」活動が設定されるとともに、中でも手がかりが必要とされるものに「活動のプロセス」として「本を紹介する」「古典作品を翻案する」「短歌を作る」「エッセイを書く」「短編小説を書く」という五つの教材が掲載されており、文学的な文章を書くために選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にするなど、題材の設定から構成の検討、推敲、共有まで書くことを学ぶことができる構成となっている。
【読むこと】	<ul style="list-style-type: none"> ・小説、詩歌などを通じて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色などについて学ぶとともに、文学作品の内容を精査・解釈することができるような構成になっている。 ・文学評論や人間や戦争に関する随筆などを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めることができる構成になっている。 ・各教材末に「学習の手引き」「活動」が設けられ、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉えるなど、構造と内容の把握から精査・解釈、考えの形成、共有まで読むことを体系的に学ぶことができる構成となっている。
b 読書に関する指導	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「『こころ』の舞台を歩く」「不条理文学の巨頭 カフカとカミュ」という特集ページが掲載されている。

《その他の項目》(各教科共通)	
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫	・「山月記」と「人虎伝」を読み比べる課題が設定され、比較しながらそれぞれの文化を尊重する考えをもてるよう工夫されている。
人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫	記載なし
安全・防災や自然災害の扱い	記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫	記載なし
固定的な性別役割分担意識に関する記述等	<ul style="list-style-type: none"> ・中島敦「山月記」で、「妻子の衣食のためについに節を屈して～」という記述が見られる。 ・「米坂線109列車」で、「母がいそいそと風呂を焚き始める」という記述が見られる。 ・夏目漱石「こころ」で、「私」が「奥さん、お嬢さんを私にください。」と言い、「奥さん」が「よござんす、差し上げましょう。」と言う場面が見られる。 ・森鷗外「舞姫」で、「学識あり、才能ある者が、いつまでか一少女の情にかかづらひて、目的なき生活をなすべき。」「またかの少女との関係は、よしや彼に誠ありとも、よしや情交は深くなりぬとも、人材を知りての恋にあらず、慣習といふ一種の惰性より生じたる交はりなり。意を決して断てと。」という記述が見られる。
(2) 構成上の工夫	
デジタルコンテンツの扱い	・関連する資料や音楽、動画等を紹介するサイトにアクセスできるよう二次元コードを掲載している。
ユニバーサルデザインの視点	記載なし

文学的文章			評論等		
教材名	作品名	作者名等	教材名	作品名	作者名等
ランドセル	ランドセル	角田光代	感触—世界のリアル	感触—世界のリアル	保坂和志
途中下車	途中下車	宮本輝	もののふの心	もののふの心	若松英輔
山月記	山月記	中島敦	自分を解釈してもらおう喜び	自分を解釈してもらおう喜び	平野啓一郎
生は乃ち君等と伍を為さんや	人虎伝	李景亮	米坂線109列車	米坂線109列車	宮脇俊三
天景・猫	天景・猫	萩原朔太郎	餓鬼道としての詩	餓鬼道としての詩	松浦寿輝
永訣の朝	永訣の朝	宮沢賢治	詩人のふるさと	詩人のふるさと	富岡多恵子
サーカス	サーカス	中原中也	●（巨きなピリオド）	●（巨きなピリオド）	谷川俊太郎
ふと	ふと	吉原幸子	客ざらい	客ざらい	谷崎潤一郎
復讐	復讐	三島由紀夫	「サヨナラ」デケガ人生ダ	「サヨナラ」デケガ人生ダ	野崎敏
アイデンティティ	アイデンティティ	藤野可織	参加する観客—映画の「意味」	参加する観客—映画の「意味」	内田樹
麦わら帽子のへこみ	麦わら帽子のへこみ	穂村弘			
短歌八首		正岡子規			
短歌八首		与謝野晶子			
短歌八首		伊藤左千夫			
短歌八首		斎藤史			
短歌八首		佐佐木幸綱			
短歌八首		岸上大作			
短歌八首		水原紫苑			
短歌八首		中川佐和子			
俳句八句		飯田蛇笏			
俳句八句		竹下しづの女			
俳句八句		杉田久女			
俳句八句		種田山頭火			
俳句八句		加藤楸邨			
俳句八句		高屋窓秋			
俳句八句		黒田杏子			
俳句八句		夏石番矢			
靴の話	靴の話	大岡昇平			
根府川の家	根府川の家	茨木のり子			
虫のいろいろ	虫のいろいろ	尾崎一雄			
日曜日はどこへ	日曜日はどこへ	川上未映子			
こころ	こころ	夏目漱石			
愛のサーカス	愛のサーカス	別役実			
少年という名前のメカ	少年という名前のメカ	松田育子			
檸檬	檸檬	梶井基次郎			
バックストローク	バックストローク	小川洋子			
詩人・草野心平からの贈り物	春	草野心平			
詩人・草野心平からの贈り物	冬眠	草野心平			
詩人・草野心平からの贈り物	富士山（作品第拾巻）	草野心平			
詩人・草野心平からの贈り物	アイスクリーム	草野心平			
詩人・草野心平からの贈り物	猛烈な天	草野心平			
畜犬談	畜犬談	太宰治			
変身	変身	カフカ			
短歌—寺山修司十首		寺山修司			
俳句—虹の俳句七句		水原秋桜子			
俳句—虹の俳句七句		大野林火			
俳句—虹の俳句七句		山口誓子			
俳句—虹の俳句七句		石田波郷			
俳句—虹の俳句七句		津田清子		男	女
俳句—虹の俳句七句		高柳重信	評論等	90%	10%
俳句—虹の俳句七句		堀葦男	小説等	72%	28%
氷男	氷男	村上春樹	詩歌	68%	32%
舞姫	舞姫	森鷗外	計	73%	27%